

十時啓悦

樹木と漆と暮らし

Akiyoshi Totoki: *Life Among Trees and Urushi*

会 期：2020年11月16日[月]–12月19日[土]

休館日：日曜日 ● 入場料：無料

時 間：10:00–18:00 (土曜・祝日は17:00閉館)

会 場：武蔵野美術大学美術館 展示室2・アトリウム1

- 主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館 ● 協力：武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科研究室
- 状況により会期等が変更となる場合がございます。

十時啓悦

樹木と漆と暮らし

木漆工芸家・十時啓悦(本学工芸工業デザイン学科教授)の退任を記念して、本展では新作や近作を中心に、十時の手仕事の現在を紹介します。

木漆工芸では木材を加工して成形する「素地作り」と、表面を塗装する「漆塗り」に分業していますが、十時は全行程を一貫して自らの手で行っています。その根底には造形への深いこだわりと、「現代の暮らしの中で生きる作品を作りたい」という強い思いがあります。

椀、皿、盆、酒器、花器、家具など生活を彩る調度品として、多くの人が手にとりやすいよう、十時は高価な素材をあえて使わず、無駄のない手数とシンプルな仕上げで制作します。洗練された手法によって、素材を活かし表現性を高めると同時に、日常使いのなかに新たな「用の美」を追求してきました。

約100点の作品とともに、暮らしに彩りを添える木漆工芸の魅力、木と漆という自然素材が見せる表情の豊かさを紹介すると同時に、制作工程についての解説展示によって、十時特有の技法を紐解きます。

【略歴】

十時 啓悦(ととき あきよし)

1950年、大阪府生まれ。'73年、武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科工芸工業デザイン専攻卒業。'75年東京藝術大学大学院美術研究科漆芸専攻修了後に漆芸家の野田行作に師事。'77、'81年、日本クラフト展優秀賞受賞。'86年、日本伝統工芸新作展奨励賞受賞。2003年、青梅クラフト館設立。現在、日本文化財漆協会参与、武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科(クラフトコース)教授。

【関連イベント】

会期中にトークイベント等を予定しています。日時等は決定次第、当館webサイトにてお知らせいたします。



【同時開催】

「Door is Ajar ドアは開いているか 山本直彰展」

会場：武蔵野美術大学美術館 展示室3・4

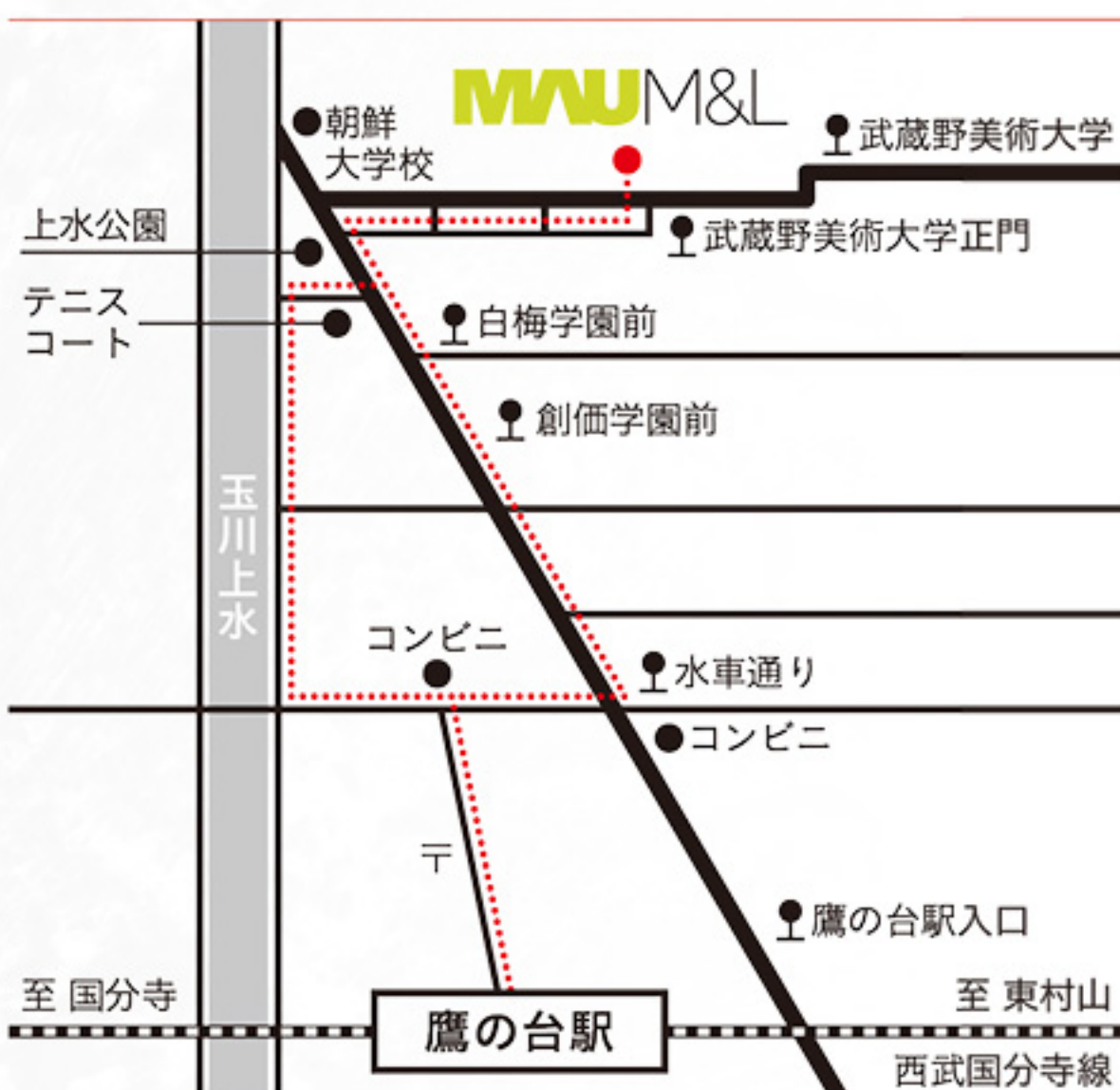
「所蔵品展—ふたしかなデザイン」

会場：武蔵野美術大学美術館 アトリウム2

「部屋と庭 隔たりの形式」

会場：武蔵野美術大学美術館 展示室1

表《洗朱挽目椀》1976年 1《金銀彩菓子鉢》2012年 2《洗朱挽目椀》1976年 3《布目錆肌椀形鉢》2013年 4《洗朱布目大盛器》2019年 5《朱溜角干菓子皿》2006年 6《布目錆肌三段重箱》2009年 7《赤錆模様花入れ》2020年 8《銀箔模様酒器》2008年 9《根來湯桶》2005年 10《乾漆本朱輪花菓子鉢》2005年
※実際の展示作品とは異なる場合があります。



武蔵野美術大学 美術館・図書館

187-8505 東京都小平市小川町1-736

TEL: 042-342-6003

<https://mauml.musabi.ac.jp/>

@mau_m_j

アクセス

- ・西武国分寺線「鷹の台」駅下車 徒歩18分
 - ・国分寺駅北口より西武バス「武蔵野美術大学」または「小平営業所」行きに乗車、「武蔵野美術大学正門」下車(バス所要時間 約20分)
 - ・立川駅北口(5番乗場)より立川バス「武蔵野美術大学」行きに乗車、「武蔵野美術大学」下車(バス所要時間 約25分)
- ※お車でのご来館はご遠慮ください。